

ユーロ圏金融政策（2026年9月）

市場予想通り中銀預金金利を2.5%へ引き上げ

2026年9月11日

インフレ見通しを上方修正、エネルギー価格次第で追加利上げの公算

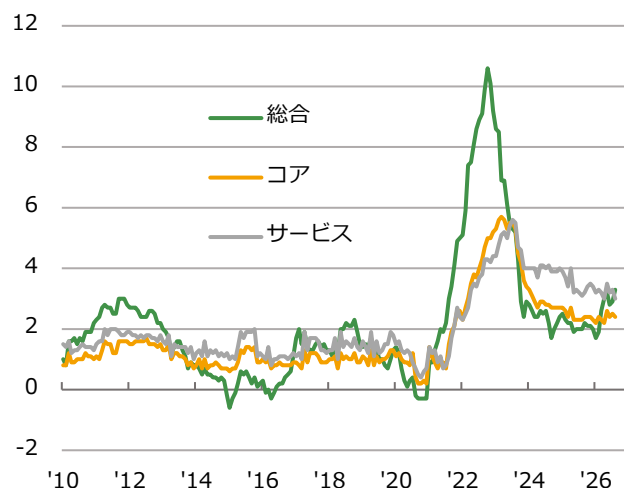
ECB（欧州中央銀行）は9月9・10日（現地）の理事会で、現在の主たる政策金利である中銀預金金利（銀行がECBに所要準備を超えて預ける資金の金利）を市場予想通り0.25pt引き上げ2.5%としました。昨年6月に2%へ引き下げて以降据え置いていましたが、今年6月に利上げに転じ、前会合の7月は据え置いた後、今回再び利上げしました。利上げは広く予想されていたため、決定自体にサプライズはありません。

ECBは前会合で、9月の理事会ではそれまでに発表される多くのデータに基づき金融政策を判断するとしていました。実際、中東での紛争が長期化しエネルギー価格が再び高騰するなか、四半期ごとに公表の経済見通しでは、消費者物価指数を2026年以降順に前年比+3.0%、+2.5%、+2.1%と、6月時点のそれぞれ+3.0%、+2.3%、+2.0%から、2027、2028年について上方修正しました。見通しに係るリスクは上振れのままです。消費者物価指数のうちコアは2028年でも+2.3%（6月時点では+2.2%）の見通しです。景気は底堅く推移しており、実質GDP成長率の見通しも2026、2027年について上方修正しました。

ラガルド総裁は記者会見で、不確実性が高いなか、金融政策はデータに基づき会合ごとに決定する方針を強調し、今後の金融政策の道筋について言質を与えませんでした。もっとも、経済見通しの前提の一つである市場が織り込む短期金利は、今回の利上げに追加して約2回の利上げを織り込んだ水準であり、エネルギー価格が高止まったままであれば、追加利上げの公算が大きいことが示唆されます。

ユーロ圏の消費者物価指数

(前年同月比、%) (2010年1月～2026年8月)



※コアは食品・エネルギー・アルコール・タバコを除く系列
(出所) 欧州統計局

ユーロ圏の金利と為替

(%) (2018年1月初～2026年9月10日) (米ドル/ユーロ)



※中銀預金金利は発表日ベース

(出所) ブルームバーク

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

この資料は情報提供を目的として作成したものであり、特定の商品の投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資判断の最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

金融商品取引法に基づきお客様にご留意いただきたい事項を以下に記載させていただきます。

むさし証券の概要

商 号 等 : むさし証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第105号

加入協会 : 日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

リスクについて

国内外の金融商品取引所に上場されている有価証券(上場有価証券等)の売買等に当たっては、株式相場、金利水準等の変動や、投資信託、投資証券、受益証券発行信託の受益証券等の裏付けとなっている株式、債券、投資信託、不動産、商品等(裏付け資産)の価格や評価額の変動に伴い、上場有価証券等の価格等が変動することによって損失が生じるおそれがあります。

◎ 上場有価証券等の発行者等の業務や財産の状況等に変化が生じた場合や、裏付け資産の発行者等の業務や財産の状況等に変化が生じた場合、上場有価証券等の価格が変動することによって損失が生じるおそれがあります。

◎ 新株予約権、取得請求権等が付された上場有価証券等については、これらの権利を行使できる期間に制限がありますのでご注意ください。

◎ 上場有価証券等が外国証券である場合、為替相場(円貨と外貨の交換比率)が変化することにより、為替相場が円高になる過程では外国証券を円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では外国証券を円貨換算した価値は上昇することになります。したがって、為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。

※ 裏付け資産が、投資信託、投資証券、預託証券、受益証券発行信託の受益証券等である場合には、その最終的な裏付け資産を含みます。

※ 新規公開株式、新規公開の投資証券及び非上場債券等についても、上記と同様のリスクがあります。

手数料等諸費用について

当社取り扱いの商品等にご投資いただく場合

各商品毎の所定の手数料をご負担いただく場合がありますが、商品毎に異なるため、ここでは表示することができません。

また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。

投資信託につきましては、手数料の他、信託報酬等・その他の費用(監査費用、運営・管理費用等)等を御負担いただきますが、これらの費用等は、事前に計算できませんので表示しておりません。

当該商品等の契約締結前交付書面や目論見書またはお客さま向け資料等をよくお読みください。

【広告審査済】